

出題のねらい・解答例 〔学校推薦型選抜〕

中村学園大学〔教育学部〕

【小論文】

〈出題のねらい〉

本小論文の課題文は、「貧困と保育 第6章 子どもの発達と貧困（かもがわ出版）」の一節を引用している。その著者、菅原ますみは、イギリスの社会学者テス・リッジが著した「子どもの貧困と社会的排除」の実態を取り上げ、日本においても当てはまることであり、幼少期から、排除される側の心のケアと、排除する側の「社会的包摂」をめざす教育的なかわりの必要性を述べている。この課題は、2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中核をなすSDGs「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」にかかわる「貧困による社会的排除」と一致するものであり、今後の次世代を担う若者にとっても、世界に共通する重要な課題である。

そこで本小論文では、課題文とともに、「先進国41か国の世帯所得が中央値の60％に満たない世帯に暮らす子どもの割合（2018）：ユニセフ／ノチエンティ研究所」の図から、受験生には、日本を含め、世界の子どもの貧困率がどの程度であるかをとらえて、世界的な視野で日本の子どもたちの貧困の状態を認識すること、それをふまえて、今後、教職・保育者をめざす立場として求められる視点・関わりを考える機会となることを期待したい。

以下に設問に従って留意すべき点を挙げる

- ① 著者の主張を的確に読み取り、その論旨を明確に示すこと
- ② 課題文とは無関係な論の展開で、自己主張に終始することがないように、①を踏まえて「子どもの貧困」について自分の考えを述べること
- ③ ①と②を合わせて、400字以内でまとめること
- ④ 誤字に留意し、読みやすい文章構成にすること

〈模範解答例〉

問1

子どもの貧困率調査では、日本を含む先進国41か国の半数近い国の子どもの貧困が2割を超えている。日本の子どもの貧困率も同様で、5人に1人が貧困であるといえる。(77字)

問2

リッジはイギリスの青少年を対象とした調査から、相対的貧困が引き起こす子どもの社会的排除の実態を示している。これは日本の子どもにも当てはまり、さらに塾や進路選択の制約など、勉強に関する疎外感も含まれるかもしれない。またリッジの調査対象の10歳以上よりも、もっと早い年齢段階の子どもたちが、貧困の中でどんな不都合な体験をし、自分の状況をどのように感じているのかを丁寧に見ていく必要がある。そして自尊感情の低下している子どもの心をケアするとともに排除する側の子どもたちに対しても、社会的包摂をめざす教育的なかわりを工夫していくことが必要であると著者は述べている。

保育者・教師は、まずは相対的貧困の実態を認識する必要がある。また、社会的に排除されている側の子どもへの配慮をするとともに、子ども集団が貧困にとらわれず、互いに認め合える力を身につけられるような保育や教育を行うことが重要と考える。(392字)